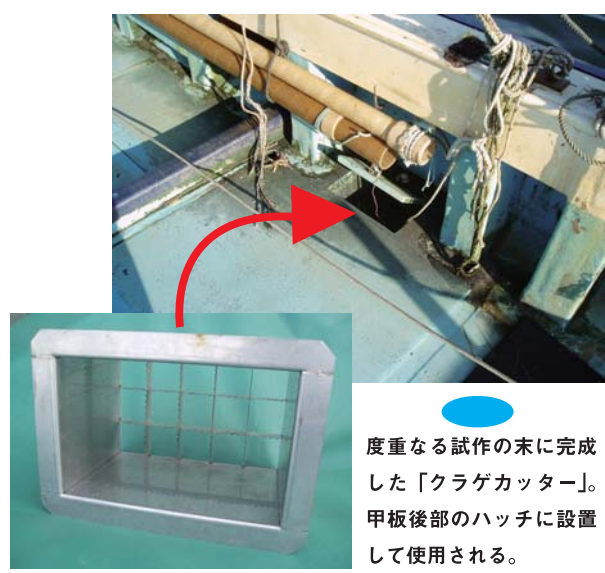


おめでとう  
大分県漁業協同組合青年部  
宇佐支部

農林水産大臣賞は、発表者である副支部長の森本公治さんが代表して表彰を受けた。



度重なる試作の末に完成した「クラゲカッター」。甲板後部のハッチに設置して使用される。

## 一漁村研究実践活動の成果一

# 農林水産大臣賞 受賞

**社** 団法人日本水産資源保護協会では、「漁村研究実践活動」として漁業関係者の研究活動に助成しています。平成 16・17 年度に当協会の助成を受けた大分県漁業協同組合青年部宇佐支部の実践活動が、全国漁業協同組合連合会主催の「第 11 回全国青年・女性漁業者交流大会」(平成 18 年 3 月 8～9 日、東京都港区・虎ノ門パストラル)において、見事「農林水産大臣賞」を受賞しました。

本大会は、全国の青年・女性漁業者が日頃の研究・実践活動の成果を発表し、広く相互の知識や研究を交流し深めることによって、水産業・漁村の発展・活性化のための技術・知識などを研鑽することを目的に開催され、今大会では代表 51 グループが 5 分科会に分かれて活動実績を発表しました。

同支部は、主に環境保全の維持・改善や漁業・漁村が存在することで発揮される多面的機能の維持・増進などに関する研究・実践活動への取り組みが対象となる第 5 分科会に参加。「クラゲ退治!!～周防灘の復活を目指す後継者達の取り組み～」との題名で、網漁業で大量に混獲され漁業被害を与えるミズクラゲを、独自に開発したカッターを用いて駆除する取り組みについて報告しました。この受賞は、本活動を支援した当協会にとっても大変意義深いものです。

周防灘では、昭和 60 年頃から宇佐支店漁獲金額の約 9 割を占める網漁業でミズクラゲによる漁業被害が増加し、平成 15 年には、ついに操業できない日々が続く事態となっていました。そこで、専門家を招いた講演会で

得られた「傷つけて駆除する」というアイデアを県水産試験場と協力して検証したところ、3/4 以上切除されたクラゲは、15 日後には 20%しか生残しないことが判明しました。クラゲを切断する金属枠を船甲板後部のハッチに設置する方法は、青年部の話し合いから提案されたもので、安価・簡便でありながら極めて実用的といえます。度重なる試作品の製作や刃の間隔試験を実施して「クラゲカッター」が完成。水産試験場と共同実施した 5 回の試験操業では、「クラゲカッター」で切断されたクラゲは、1 週間後には 83%へい死すること(対照区 27%)が確認され、その効果も実証されました。仮に宇佐支店の底びき網全船が「クラゲカッター」を設置すると、1 億 1 千万個体のクラゲが駆除できると予測されます。

現在、青年部所有の全船(22 隻)だけでなく、「宇佐支店底びき網協議会」協力のもと、底びき網漁船全船(81 隻)へも「クラゲカッター」の設置が決定しているとのこと。さらに、宇佐支部が始めた「クラゲ操業日誌」を同じ漁場で操業する中津・香々地支部でもつけ始めるなど、本活動は着実な広がりを見せています。

今後は、大分県周防灘沿岸部の他支店や隣接県を皮切りに、瀬戸内海全域に「クラゲカッター」の普及を考えているとのこと。また、大型クラゲも処理できるようにカッターのサイズを改良し、近年、沿岸各地で多大な被害をもたらしている「エチゼンクラゲ」の駆除にも応用したいと考えているようです。更なる広がりを期待したいと思います。

(文:「漁村研究実践活動」担当 小林曜蔵)



「クラゲカッター」を手にした大分県漁業協同組合青年部宇佐支部の皆さん。一致団結した結果の受賞に喜びもひとしお。